

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800610		
法人名	有限会社 桜の里		
事業所名	グループホーム 桜の里(さと)		
所在地	三重県度会郡玉城町139-3		
自己評価作成日	令和 4年 12月 10日	評価結果市町提出日	令和5年 3月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;lijyosyoCd=2472800610-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;lijyosyoCd=2472800610-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	510-0947 三重県四日市市八王子町439-1
訪問調査日	令和5年2月14日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近所に保育園や小学校があり、園児の散歩コースになっておりコロナ禍においても窓越しではあるが挨拶をしたり地域とのつながりが持てている。環境も良く入居者様が安心して暮らしていけるよう、職員一人ひとりが入居者様の生活歴や今何を望んでおられるのかを理解しご家族様と共に入居者様を支えサポートしている。主治医やご家族様と連携し、ご本人様、ご家族様の要望に応え、ターミナルケアもしている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

働きやすい職場を目指し、職員がストレスなくモチベーションを維持・向上でき、パフォーマンスを発揮でき柔軟な働き方が出来るよう、アンバーサリー休暇、子供の看護休暇、介護休暇を導入している。資格取得支援など成長を後押しする環境を整え、職員が思っている事や現状の職場環境について、じっくりとヒヤリングやアンケートを行い、情報収集を行っている。コロナ禍の為、面会や外出に制限があるので毎月、お茶会や季節のイベントを実施し、季節感も良く感じる事の出来る環境なので毎日散歩したり、のんびりゆったり楽しくをテーマに活動している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当社の理念「あきらめない」を踏まえた上で、毎日ミーティングで確認し合いながら実践、入居者様の支援に努めている	玄関と事務所に理念を掲げ、毎日確認している。利用者のその人らしい生活を維持できるように、支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設前が小学生の登下校路、保育所の散歩コース、ご近所様のウォーキングコースになっているので姿が見えると窓から手を振ったりしている	自治会に加入し、以前は保育園の運動会の見学にも招待されていたが、コロナ禍以降は窓越しに園児が散歩に行く時間を楽しみにしている。昨年は小学校よりアサガオの種を届けてもらい、施設に植えた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや地域の方々に認知症について知っていただくきっかけに当施設の行事に参加して頂いたり町内のイベントにも参加しているが、今年度もコロナウイルス感染予防の為参加できなかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は必ず運営推進会議開催していたが今年度はコロナウイルス感染予防の為1月、3月、9月は開催出来ませんでした。 新型コロナウイルスの流行時期をみながら、地域介護相談員と面談を行い入居者様の様子や施設内の活動報告を行っている	コロナ禍により、家族の参加は見合わせているが、介護相談員と地域包括センターには参加してもらい意見を聞いている。	今は家族の参加は見合わせているが、報告だけでなく、リモートなどを使い家族の意見や要望を聞く機会をつくるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の相談員に来て頂きアドバイスをいただいている。また地域共生室の方にも困難事例や法令の解釈などのアドバイスをいただいている。	町の職員からは訪問時や電話にて相談やアドバイスを貰っている。運営推進会議には介護相談員や包括支援センターのスタッフにも出席してもらい意見を聞いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内勉強会を実施し、職員全員が何が身体拘束になり、なぜ身体拘束をしてはいけないのか理解している。令2年3月以降は会議の実施を中止していたが、R4・11月勉強会を再開	身体拘束委員会を設置し、ミーティングの都度に厚生省の資料をもとに勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や更衣時などには身体にケガやアザ内科をチェックしている。また職員の入居者様に対する言葉使いにも注意指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設では現在、成年後見制度を利用している入居者様がおられる。また、必要性のある方は関係者と相談して、活用も視野に入れて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書の内容を説明し、疑問に思われるところは質問してもらい、理解していただくから同意をいただいている。また、後に疑問に思われるようなところがあれば、気軽に相談していただくように説明もしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来所時には近況報告を行い、より良い関係を築けるように努めている。また、その時に意見や問題点なども伺い、改善していくようにしている。	コロナ禍の為、対面での報告や意見交換する機会は減ったが、メールや電話で早期の連絡、報告を行っている。家族来所時には職員全員が同じ対応が出来るように申し送りは徹底している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、職員の要望や提案を聞けるように努めている。また、申し送りやカンファレンス会議で職員からの提案は積極的に発言できる雰囲気、環境を作っている。	毎月ミーティングや毎日の申し送り時、個人面談など代表者が何時でも悩みや要望を聞き、勤務の希望などの実現に努めている。ケアについての意見も都度職員で話し合い実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者とは毎月役員会において当施設の現状や職員の勤務状態などを話合っており、職員がやりがいを持てるように職場環境や労働条件の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護支援専門員や介護福祉士の資格に関わる研修などは勤務調整し、資格が取得出来るように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染予防の為勉強会や交流の機会も有りませんでした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様とお会いして、状態を把握し、どのような支援が必要で何を求めているのかを確認し、適切な支援を行えるように努めている。また、知りえた情報は職員全員で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や、これまで行ってこられた支援内容、悩みを傾聴し、施設でできることやできないこと説明させていただいて、一緒に支援していけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の話を伺って、今どのような支援が必要かを話し合い、それを基にケアプランを作成している。また、必要に応じて他のサービスの利用も考慮して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お話を伺い、生活履歴も参考に何が出来る何が出来ないか、何が好きで何が嫌いかを把握し、お互いに協力しながら生活していける関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された際は近況報告や支援の方法などの相談を行い、一緒に本人を支えていけるような関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや自宅への帰宅など、これまで築いてこられた関係や習慣をできる限り崩さぬように支援している。今年度3月以降は家族様以外の面会は制限している為地域の知人の方などとの交流は難しい。	コロナ禍以前は隣接しているデイに行き、近所の知り合いと話をしたり、自宅へ帰ったりと自由に過ごしていたが、今は窓越し面会やアプリを利用したオンライン面会をして馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や状態を考慮し、入居者様同士のより良い関係が築いていけるように努めている。また、食事席などは関係に応じて配置を変えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族様が施設で使える物を寄付してくれたり、町で偶然出会った時などに声をかけて下さる。また、退居された後も、ご本人様の近況などを伺うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で悩み事や要望を傾聴し、ご本人様が求めている事を支援できるよう努めている。要望を訴える事が困難な場合は生活歴やご家族様からお話を伺いご本人様の意向を読み取るようにしている	利用者の希望や要望を聞き、意向に沿うようにしている。意思疎通が難しい利用者には表情や家族の情報をもとに支援するよう努めている。家事の得意な人には、洗濯物を干したり、畳んだりと出来る事を手伝ってもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様からの話を伺い、これまでどのように生活してきたのか情報収集している。また、主治医意見書などの情報も活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々バイタルチェックし、食事量や水分量、排泄の状態など心身共にその日の状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、現在の介護計画で何が足りないかを考察し、カンファレンス会議で意見を出し合っている。またご家族様には来所の際に近況報告を行い、意見交換に努めている	6ヶ月に一度、家族、主治医、職員の意見を聞き、介護計画を立てている。担当職員のアセスメントや意見を基に毎月モニタリングを行い、現状に即した介護計画のもとで支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員への引継ぎには普段と違った事や勤務者が気付いた事を伝え、支援に生かしている。また、ケアプランを手元に置いて支援する事により、会議計画にそって支援出来ているかを確認している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お墓参りや畑作り、ドライブなどその時の要望や状態に応じて柔軟に支援を行っている。また看取りなどご家族様が不安な時には主治医や関係者を集めて話し合いの場を設け、支援内容を決めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設のイベントに保育園や地域のボランティアの方々に協力をいただいている。また、地域のイベント事にも積極的に参加し、交流を深めている。R2年3月以降はコロナによる自粛期間の為に行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、入居者様全員が当施設の協力医を利用しているが、ご本人様やご家族様の希望により主治医を変えていただくこともできる。当施設の協力医は月2回隔週の往診と24時間対応で何かあれば臨時往診などもいただいている。また、必要に応じて他の病院の受診の支援もしている。	入所時に、協力医、看護師、家族、管理者との面談があり、現在は全員が施設協力医を利用し、2週間に一度訪問診療を受けている。歯科や耳鼻科など家族との受診時には、施設の車を使い職員も付き添い状態の説明をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、週1回の訪問看護で入居者様の変化や職員が気が付いた事などを相談し、情報の共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は入居者様の情報提供をし、病院やご家族様からも入院後の経過や状態を聞かせていただいている。また、定期的にお見舞いにもいかせていただいております。退院後の生活についてもアドバイスをいただいて早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と主治医と職員や関係者が話し合える場を設け、終末期や施設でできる支援など不安がないように説明させていただいている。また、看取りに関する同意書も作成しており、納得していただいております。	入所面談時に、協力医から丁寧な説明や質疑応答があり、職員からも今後の状態に合わせた支援の提案を行い、家族納得の上で看取りに関する同意書にサインを貰っている。重度化に伴い、都度医師や家族を含めた関係者で話し合い、本人や家族の希望に寄り添った看取り支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを製作しており、緊急事態にはどのように対応したら良いかをわかるようにしている。また、施設内にAEDも設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回避難訓練を実施しており、緊急事態にはどのように対応したらよいかを分かるようにしている。避難方法などを確認や玄関にはヘルメットや緊急時に必要な物を詰めたリュックサックも用意し、日頃から災害に備えている。	消防署に訓練計画書を提出し、年3回の避難訓練を、夜間、火災、地震を想定して非番の職員を含め全員で実施している。隣接するデイ、グループホーム、有料老人ホームの職員、近所に住む職員が駆けつける予定である。食料、水、衛生用品等の備蓄品の確認を毎月行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、尊厳を傷つけない声掛けを行うように注意している。	トイレ誘導や入浴介助含め日々の生活支援時には、プライドを傷つけないように本人の意思を尊重して支援している。トイレや入浴介助時は出来るだけ同性介助を行うように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、入居者様と接する中で想いを聞き、出来る限り希望にそって生活していけるように支援している。また、意思疎通が困難な場合でも生活歴やご家族様からお話を伺い、入居者様の意向を読み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に決まっている食事や入浴時間はあるものの、その時の体調や希望により時間や提供場所の変更など柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方には自分でしていただき、自分ですることが難しい方には職員と一緒に身だしなみを整えさせていただいている。訪問理容での散髪など、ご本人様の希望に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状態に合わせた食事形態での提供を行い、少しでも食事を楽しんでもらえるよう支援している。また、一人ひとりのできる事を把握し、それぞれできる範囲でテーブル拭きなど手伝っていただいている。	食事は隣接するディで手作りし、誕生会には利用者の好きな献立にしている。おやつレク活動のケーキ作りでは、思い思いにデコレーションをして楽しんで貰ったり、季節の行事時には、元寿司職人の職員が握り寿司を提供し喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量をチェックしている。食事量が極端に少ない日が続いたり、あまり水分を取ってくださらない方には好みの飲み物を提供するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で出来ない方には職員が介助で口腔ケアを行っている。また、希望される方は毎週1回の訪問歯科での口腔ケアも受けておられる。訪問歯科にはアドバイスもいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや下剤を調整し、トイレでの排泄が出来るように支援している。また、長時間トイレに行かれていない方には声をかけてトイレ誘導を行っている。	トイレチェック表の活用で、日中は殆どの利用者が、トイレで排泄出来ている。水分量の調節や運動で便秘予防に努めているが、便秘の利用者には、協力医と相談し下剤を調整して貰うことで、失敗を減らし排せつの自立継続に繋げる支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、最終排便や便の状態がわかるようにしている。排泄の状態により、水分量を増やしたり、散歩などで便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に合わせて、出来る限りその方の希望に沿って入浴出来るように支援している。	基本週2回であるが、体調や血圧などにより入浴出来ない場合は、清拭や足湯などで対応している。湯舟に入ることが難しい利用者には、隣接するデイの機械浴を利用する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるように日中に職員と一緒に散歩をしたり、自分で体位変換ができない方は2時間おきに職員が介助させていただいている。また、ご本人様の体力により、日中に休息の時間も設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報ファイルを作成しており、どんな作用がある薬かなど分かりやすいようにしている。また、薬の変更や追加があった場合などは、ご家族様にも連絡し、疑問などがあれば主治医と相談する場も設けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居後も以前から楽しみにしていた事などを出来る限り続けていけるように支援している。自宅やお墓の様子を見に出かけたり、入居者様の希望で庭に畑を作り農作物を育てたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お墓参りや畑での農作業、ドライブや散歩など入居者様の希望にそって外出できるように支援している。	コロナ禍の為、以前のように外出は出来ない。現在は、車窓ドライブで桜やアジサイの鑑賞を楽しんで貰っている。天気の良い日は近所に散歩に出かけ、気分転換をはかっている。また、庭の畑で、好きな農作業を楽しむ人や墓参りに行く人もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設に入居しても全部こちらで金銭を預かるのではなく、希望者にはお金を自分で所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様、ご家族様が希望されればいつでも電話やビデオ通話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を季節に応じた飾り付けにしている。また、居室の温度やテレビの音量の大きさなど心地よく過ごせるように調節している。	ログハウスの大きな出窓空間から、隣接する保育園の子どもが手を振ってくれるのが見え、日当たりが良く広く明るいいため、利用者が日向ぼっこのできる憩いの場となっている。利用者が居心地よく過ごせるよう温度や音量にも配慮し、季節に応じた飾りつけで季節を感じて貰えるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	暖かな日差しが入る出窓や畳のスペースなど、その時の気分や天候に応じて気の合った方と過ごしていただく場所が選べるような空間を提供できるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご本人様が使っていた物や、必要としている物などをご家族様と相談して持ってきていただいている。居室内の配置等もご本人様やご家族様と相談しながら決めている。	居室には家族の写真や馴染みや好みの家具を、本人や家族と相談しながら、本人が居心地の良いように配置し、居宅時からの違和感を軽減できるように配慮している。入口のガラス窓にのれんで目隠しを行い、プライバシーにも配慮し安心して寛げる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状況に応じて環境設備を整えている。また、ヒヤリハットがあがった際は早急に対策し、安全な生活が送れるように支援している。		